

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

2019 年度 事業報告書

(公益第7期)

(2019年7月1日～2020年6月30日)



公益財団法人

ひょうごコミュニティ財団

HYOGO COMMUNITY FOUNDATION

目 次

1. 概況	2
2. 新型コロナウイルスの影響と当財団の対応	5
3. 事業	8
(ア) 説明会・講習会の開催	
(イ) 寄付啓発事業	
(1) ファンドレイジング事業	
(ウ) 市民活動団体への助成事業	
(2) 共感寄付事業	
(3) 「輝け加古川みらい基金」事業	
(4) 「真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金」事業	
(5) 有園博子基金	
(6) NPO への助成事業	
(7) 新型コロナウイルス感染拡大に関連する助成事業	
(エ) 市民活動活性化につながる基金・財団への支援	
(8) 他の基金等の事務局受託等	
(オ) 調査研究事業	
(9) 調査研究事業	
(カ) 市民活動団体への非資金的支援事業	
(10) 市民活動団体への非資金的支援事業	
4. 組織	24
(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況	
(2) 会議	
(3) 組織の基盤整備	
(4) 公益目的事業の区分の追加検討	
(5) 市民参加の推進（インターン、ボランティアなど）	
<資料編>	27
5. 決算報告	別紙
(1) 正味財産増減計算書	
(2) 正味財産増減計算書内訳書	
(3) 貸借対照表	
(4) 財産目録	
(5) 財務諸表に対する注記	
(6) 監査報告	

※附属明細書について

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

1. 概況

2019年度は設立7年目となり、今年も多くの皆さまのご協力を得て助成事業・ファンドレイズの両面が順調に推移したが、2月に至り、新型コロナウイルスの感染拡大により当法人も事業・組織両面に大きな影響を受けた。一斉休校要請で子どもの居場所などの問題が拡大する中、「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」を実施し、45団体に計261万円を助成した。さらに、地域の方々の要望を受け、5月に「ひょうご・みんなで支え合い基金」を設立。（新年度の7月に総額500万円の第1次公募助成を開始した）

既存の助成プログラムも、2期目に入った「有園博子基金」は本格化・大規模化して非資金的支援も盛り込んで展開し、第2ステージに入った「真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金」はテーマを新たに多文化共生・外国人支援として4期目を実施した。5期目となった「輝け加古川みらい基金」も改善を重ねつつ継続している。非資金的支援は、資金助成とセットで当財団の重要な支援スキームとなってきているが、コロナの影響も受けてまだしばらくは試行の段階である。

いずれの基金でも、助成先団体は何らかのコロナの影響を受けており、助成事業の進め方や報告提出等についても柔軟な対応をした。次年度の募集に当たってもコロナの影響を計るべく、ヒアリングなどを重ねている。

既存の4基金については、その一部または全部を、寄付者等との協議・了解を経て、コロナ対応に使うこととし、「ひょうご・みんなで支え合い基金」での統合的な公募・助成をすることとなった。

国全体も兵庫の地域社会も地域のNPOもコロナの甚大な影響を受けているが、その中でコミュニティ財団として担うべき役割～課題を知り、寄付を集め、NPOに助成をし、ともに人と社会を支える～の一端は担えていると考えるが、それはこの7年間の多くの方々の支えと蓄積によるものであり、深く感謝したい。

ファンドレイズの面では、本年も大型の遺贈が1件あり、その一部を「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」に活用できた。これもつないでくださったのは専門家であり、そのつないでくださる役割にも深く感謝するところである。

今期のもう一つの大きなトピックに、特定非営利活動法人市民活動センター神戸（KEC）からのNPO支援事業の承継がある。当財団設立以来、当財団とKECとは資金支援と非資金的支援を連携して実施してきたが、昨年一年間の議論を経てKECは事業を縮小し、2020年4月以降、その非資金的支援部門を当財団に移譲することとなった。具体的には「(10)市民活動団体への非資金的支援事業」(p18～)に記述の諸事業であり、メイン事業である資金助成事業と相まってNPO支援の効果を高めていきたい。

他方、当法人自身の組織強化はまだ課題を残しており、事務局体制の強化は途上である。

また、情報発信も十分とは言い難く、課題を残している。大口のご寄付はあるが小口を丁寧に集めることはできておらず、今後の大きな課題である。

国全体の資金環境の一つとして、この間政策提言も行ってきた休眠預金制度は、2019年春から資金分配団体の募集・選考が始まり、暮れから2020年春にかけて、実行団体（現場の団体）の公募も進んだ。また2020年春には2年目の通常枠に加えコロナ緊急枠の資金分配団体募集が実施さ

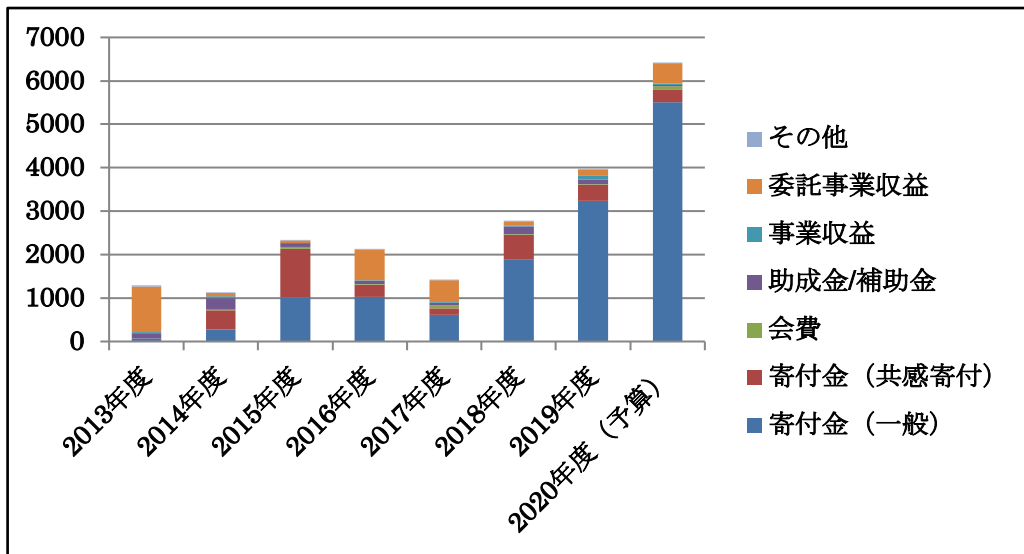
れた。柔軟で地域の団体の発展に役立つ制度となるよう引き続き政策提言を行っているが、まだ十分に柔軟な制度とはなっていないと評価している。

2019年度は約3950万円の決算額（経常収益）となり、1400万円（2017）→2770万円（2018）と、この3年間は順調に伸びてきている。累計の助成額も7年間で6920万円に達し、一定の存在感のある助成財団となってきていると言える。

地域に根ざすコミュニティ財団として、自立・離陸への道を着実に歩んでいるが、組織の強化や社会の中での認知、またより幅広い方々のご参画やご支援、協働はまだまであり、引き続き、地域社会のための助成財団として役割を果たすべく尽力してまいりたい。

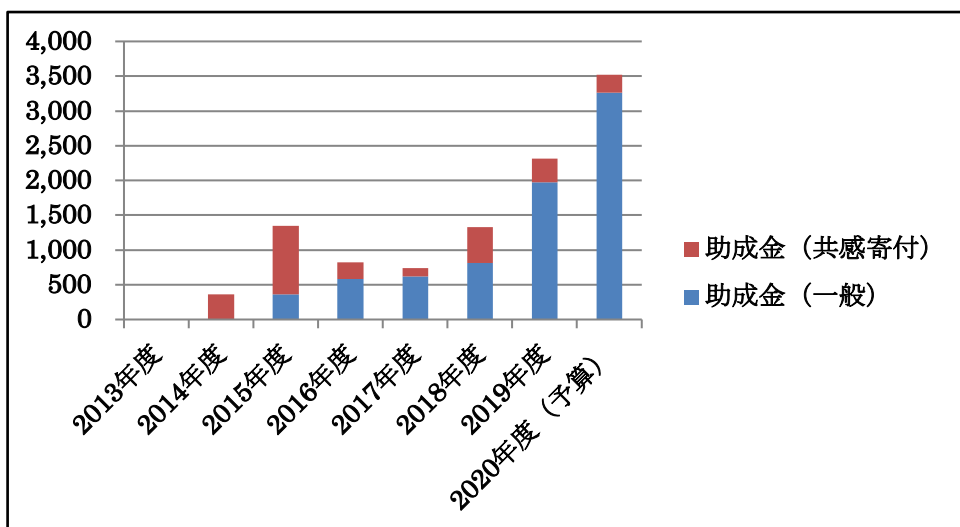
(参考)

◆経常収益の推移 (2013～2020)



年度	経常収益(万円)
2013年度	1,290
2014年度	1,111
2015年度	2,325
2016年度	2,121
2017年度	1,405
2018年度	2,771
2019年度	3,968
2020年度(予算)	6,410

◆助成額の推移 (2013～2020)



2. 新型コロナウイルスの影響と当財団の対応

2020年2月より深刻化した新型コロナウイルスの感染拡大に際し、当財団はこれを市民生活と市民活動に対する危機と捉え、当財団のミッションに照らし機動的な対応が必要と考え、理事会・常務会等で協議の上、下記の対応を行った。

- 1) 助成先団体への連絡と実情ヒアリング、および計画変更等の対応 (2020年3月1日～)
- 2) NPOによるコロナ関連支援とその資金ニーズに関するヒアリング調査 (2月27日～) とそれに基づいて実施した「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」(3月11日～)
- 3) 代表理事メッセージの発出 (4月14日)
- 4) 「ひょうご・みんなで支え合い基金」の創設 (5月9日) とコロナ緊急助成の実施 (7月～)

1) 助成先団体への連絡と実情ヒアリング、および計画変更等の対応 (2020年3月1日～)

まず、3月/4月が事業(助成)期間の終了と開始時期に当たる2基金、すなわち輝け加古川みらい基金と有園博子基金において、終了する2019年度と始まる2020年度の両方について、事業計画の変更や期間の延長は柔軟に対応することを団体に伝え、希望を聞き取った。その結果、下記のようにかなりの割合の団体が事業計画の変更を要する状況であった。中には、コロナ禍のもと支援活動の必要性と利用者・職員・ボランティアの感染への懸念との間で苦渋の判断をせざるを得なかった団体も少なくなく、ここにもコロナの大きな影響が見られた。

新年度にも助成を継続する団体や、期間の延長をしようにも先が見えない案件など、調整が難しいケースもあったが、基本的には極力柔軟に対応することを方針とした。団体からも「柔軟に対応してもらい有り難い」との声をいただいている。

この対応にはかなりの時間を要し、新年度8月まで対応は続いている。

◇輝け加古川みらい基金

	助成期間	全件数	計画変更や期間延長の件数※	割合
第4期	2019年4月～2020年3月	17件	5件	29.4%
第5期	2020年4月～2021年3月	22件	6件以上 (調査中)	27.3%以上

※変更届を要しない微小な変更を含まない。

◇有園博子基金

	助成期間	全件数	計画変更や期間延長の件数※	割合
第1期	2019年4月～2020年3月	9件	4件	44.4%
第2期	2020年4月～2021年3月	12件	7件	58.3%

※同上。

2) NPOによるコロナ関連支援とその資金ニーズに関するヒアリング調査 (2月27日～) とそれに基づいて実施した「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」(3月11日～)

2 月末から県内の NPO 等に連絡し、コロナ禍における支援のニーズや活動状況について情報収集を行った。その結果、3 月から始まった学校の一斉休校にあたり、ひとり親や共働きの家庭など、子どもの居場所が大きな課題になっており、NPO 等もその居場所づくりの活動を多くしていることが分かったため、緊急に理事会に諮り（みなし決議）、「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」を実施した。

締切を 2 次に分け、機動的な選考で計 45 団体に 261 万円を助成した。

（詳細は「(7) 新型コロナウイルス感染拡大に関連する助成事業」(p16～) 参照)

3) 代表理事メッセージの発出 (4 月 14 日)

当法人として下記の「代表理事メッセージ」を発出した。

新型コロナウイルスの感染拡大と市民活動に関する代表理事メッセージ

2020 年 4 月 14 日

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

代表理事 小森星児、実吉威

新型コロナウイルスの犠牲者、ご遺族、そして病と闘っておられる方に、心からお見舞いを申し上げます。

当財団の使命は助成事業を中心とする市民活動支援であり、今回の新型コロナウイルス感染拡大は、市民活動、市民社会にとっても大きな危機だと認識しています。

市民活動 (NPO) は、人と人が「つながる」こと、「支え合う」ことを共通の基盤として地道な取り組みを重ねてきました。かりに目に見えやすい「成果」や壮大な制度にはならなくても、この活動は社会の重要なセーフティネットの役割を果たしていると考えられます。

その、触れ合うこと、出会うこと、交わることが、現下の感染拡大の中で大きな制約を受けています。しかし、この制約の中でも、人の生命と尊厳を支えるために後退できない活動がいくつもあります。

市民活動は現在、同時に、利用者や参加者、支援者自身の感染リスクや、社会からの視線の中で難しい立場に置かれています。当財団の支援 (助成) 活動も、その難しさを自分ごととして受けとめつつ暗中模索している状況です。

今の非常事態は決して短期で終わるものではないと思われます。年単位の長丁場になる中で、人の暮らしと尊厳を支え、多様性と寛容を育む市民活動はますます重要になっていくと私たちは考えています。また同時に、ポストコロナの新しい時代の中で、そのあり方も変容を迫られるでしょう。

市民活動の価値を守り、持続的かつタイムリーな展開を資金面で支援するために、当財団も力を尽くす所存です。今日ほど、分野やセクターを超えた多くの団体、人々の連帯と協力が必要なときはありません。微力ながら、私たちもその一翼を担ってこの難関に挑んでまいります。

※3 月末終了の 2019 年度助成事業、4 月開始の 2020 年度助成事業のいずれにおいても、申請時の計画内容にかかわらず、計画や予算の変更には最大限柔軟に対応すること、またそのこと

を助成先団体に繰り返しお伝えすること、を基本的な方針としています。

※当財団として、3月に緊急助成事業として「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」を実施しました（45事業に計262万円の助成）。この期間を延長し追加助成を検討しているほか、さらに市民活動団体向けの助成を検討しています。

関連して、4月には実吉代表理事が(特活)市民活動センター神戸事務局長およびひょうご市民活動協議会（HYOGON）代表の立場で、兵庫県から事業者への休業要請にかかわる「休業要請事業者経営継続支援金」について、NPO法人等も対象となるよう要望活動を行い、成果を得た。

4) 「ひょうご・みんなで支え合い基金」の創設（5月9日）とコロナ緊急助成の実施（7月～）

これらの動きをする中で、地域のNPO等からコロナ支援のための「基金」が必要だとの声が強くなり、多くの方と協議の上、実行委員会形式で「ひょうご・みんなで支え合い基金～コロナから始まる共助社会～」を立ち上げることとなった。この基金には当財団の4つの既存基金の寄付者等とも協議・調整した上で統合的な運用をするユニークな形の基金となった。新年度の7月から第1次の助成を開始している。

（詳細は「(7) 新型コロナウイルス感染拡大に関連する助成事業」（p17～）参照）

3. 事業

ア 説明会・講習会の開催

(実施しない) ※従前どおり

イ 寄付啓発事業

(1) ファンドレイジング事業

遺贈寄付は引き続き相談が続いたほか、新規に2件の遺言書作成があり、うち1件はご遺贈に至った(本遺贈の一部を原資として「子どもの居場所を守る!緊急活動助成」を実施した)。

しかし他の「賛助会員」「小規模冠名基金」「寄付つき商品」の開拓は不十分であり、ニュースレター等の広報も不十分であった。

また、専門家・実務家向け「遺贈セミナー」も第4回を開催する予定だったが、コロナ禍により中止した。

幸い、コロナ関連をはじめ多くのマスコミ掲載があり(震災25年、子どもの居場所を守る!緊急活動助成、ひょうご・みんなで支え合い基金等)、認知度拡大の機会は得られた。

(担当:実吉、永田)

<遺贈寄付について>

今年度は遺言書作成2件、うち1件がご本人逝去により遺贈の実行となった。そのご遺贈資金(匿名基金)の一部を原資として、「子どもの居場所を守る!緊急活動助成」を実施した。不動産付きの包括遺贈であった。また、もう1件は「予備的遺贈」と呼ばれるものであった。

相談は前年より少し減ったが8件あり、累計36件となった。中にはかなり大型のものもあり、また全体の中では包括遺贈や不動産付き遺贈の占める割合も高かった。

○遺贈関連の実績

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	計
相談件数	2件	3件	13件	10件	8件	36件
うち、当財団を受遺者として遺言書を書かれた件数	2件	0件	4件	1件	2件	9件
うち、遺言が実行された件数	1件	0件	1件	1件	1件	4件

※巻末「資料編」に遺贈相談の傾向に関する資料を掲載。

<寄付つき商品について>

前期に契約いただき、助成基金となった朝日ゴルフ株式会社様（健康器具）、（一社）こうべみのりの公社様（ぶどうジュース）、株式会社夢工房様（栄養計算ソフトウェア）の寄付つき商品を引き続き継続いただいているが、新規成約はなかった。

- | | | |
|-----------------------|----------|-----------------------|
| 1. ASAHI-MITSUHASHI基金 | 396,900円 | 「ひょうご・みんなで支え合い基金」に統合 |
| 2. 神戸みのりの公社 | 118,520円 | 共感寄付の中から「音遊びの会」にご寄付 |
| 3. 夢工房 | 113,000円 | 「ひょうご・みんなで支え合い基金」にご寄付 |

<広報>

2020年6月で設立満7年となる当法人の活動報告用冊子を制作している。これもコロナの影響を受けて作業が遅れているが、新年度初頭に完成予定である。

ウ 市民活動団体への助成事業

当初の予定は、既存の助成プログラムを深化させ、またその定型化・効率化を図るとともに、数年間継続した「輝け加古川みらい基金」ではどのような成果・効果が挙げられているかヒアリングなどを行い中長期の視点で検証しようというものだった。また、非資金的支援（伴走支援）も充実させ、その試行的な実施の中から我々なりの知見と手法を紡ぎだそうとしていた。

一部は進めてきたが、2月以降のコロナ禍によりヒアリングは実施できず、また事務局業務への影響とコロナ緊急助成プログラムの立ち上げと実施（2種）もあり、助成プログラムの深化・効率化・効果の検証は一部先送りとなっている。

3月に実施した「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」は45団体に計261万円を助成、また5月には、地域の要望を受けて「ひょうご・みんなで支え合い基金」を立ち上げた。（新年度の7月に第1次の助成金公募を開始した：総額500万円）。

コロナ禍により予定が大きく変わっているが、地域の課題とニーズに対しては柔軟かつ機動的に対応できている。

（2）共感寄付事業

第5期共感寄付事業は、5団体が継続実施中、さらに2019年12月に1団体が新規に加わり、年度末時点で合計6団体が寄付募集中である。

第5期の寄付額は2020年6月末まで累計11,533,971円、2019年度中の寄付額は4,024,667円である。

2017年11月の第5期スタートより「常時募集」としており、随時問い合わせ、応募に対応する形を取っている。
（担当：永田）

◇寄付募集事業、団体および寄付額

事業名	団体名	2019年度中の寄付額	累計寄付額	寄付募集期間
ホームレス状態、安定した住居がない方への支援活動	(特活)神戸の冬を支える会	2,364,000円	5,955,000円	2017/11/20 ～2020/12/31
「KOBEにゃんずプロジェクト」(略称：にゃんプロ)	神戸ノラネコ TNR 実行委員会	340,827円	1,033,350円	2018/1/1 ～2020/12/31
全ての外国人が安心して暮らせる多文化共生社会実現のために	NGO 神戸外国人救援ネット	1,000,700円	2,445,200円	2018/4/1 ～2020/12/31
知的障害者とアーティストによる即興音楽プロジェクト	音遊びの会	264,140円	484,215円	2018/4/13 ～2020/12/31
フリースクールの実践をまとめ必要な人に届けたい	(特活)ふおーらいふ	5,000円	439,006円	2019/1/31 ～2020/12/31
塾に通えない中学生に無料学習支援を行う「神戸みらい学習室」を増やしたい	神戸市職員有志	50,000円	50,000円	2019/12/19 ～2020/12/31
(計)		4,024,667円	10,406,771円	

【選考委員】(変更なし; 敬称略)

- 委員長 中塚博和 (株)日本政策金融公庫・神戸創業支援センター 所長
委員 小嶋新 (特活)しゃらく インキュベート事業担当執行役員
委員 生安衛 兵庫県企画県民部県民生活局 局長 ※異動により 2020年3月末で交代
委員 藤井洋一 (株)神戸新聞社 論説委員



神戸ノラネコ
TNR 実行委員会
譲渡会にて
保護猫とともに



(特活)神戸の冬を
支える会
炊き出しの様子

(3) 「輝け加古川みらい基金」事業

加古川市在住の神川都様のご寄付により運営している本基金は今期で5年目(第2ステージ2年目)となった。拡大した分野(子ども+男女共同参画)、複数年助成、伴走支援導入などは昨期通り。2019年9~12月に公募し、2020年1月に選考委員会を開催し助成団体を採択した。基本コース・発展コースの2コース合わせて22団体に計3,000,000円の助成を決定した。

今期から選考時にヒアリングを導入した(発展コースのみ)。

本基金も新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、第4期(2019年度事業)で2~3月開催予定の事業ができなくなった団体も多く、事業期間の延長等に柔軟に応じた。

また第5期(2020年度事業)でも計画は昨年暮れ時点のものであり、大幅な修正を余儀なくされている団体も少なくない。柔軟な対応をしていきたい。

10月12日に予定していた中間発表&交流会は、台風19号の影響で中止となった。

(担当: 多田、堀、実吉、永田)

【募集と選考の流れ】

- 2019年 10月9日 募集開始
10~12月 説明会、個別相談会を加古川にて実施
12月6日 応募締切 ※当初11月16日であったものを延長
2020年 1月28日 選考委員会

【助成期間】

- 単年度助成 2020年4月1日~2021年3月31日
複数年助成 2020年4月1日~2022年3月31日 ※該当団体(1団体)

【応募状況と選考結果】

(1) 応募状況

応募団体	基本コース	23団体	※他に、2団体取り下げ
	発展コース	5団体	
	計	28団体	

(2) 選考結果

採択団体	基本コース	17団体	助成額	計1,338,000円
	発展コース	5団体	助成額	計1,662,000円
			助成総額	計3,000,000円

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【選考委員】 (敬称略)

委員長	吉富志津代	(特活)多言語センターFACIL 理事長
委員	井原卓也	BAN-BAN ネットワークス(株) 取締役
委員	勝木洋子	神戸親和女子大学 教授
委員	佐伯亮太	(一社)明石コミュニティ創造協会 マネージャー ※新任
委員	竹内茂雄	(特活)高砂キッズ・スペース 事務局長
委員	吉田実盛	鶴林寺真光院 住職

【協力】

(特活)シミズシーズ



「輝け加古川みらい基金」
選考委員会にて申請団体ヒアリング

(4) 「真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金」事業

宗教法人真如苑による本基金は、3期まで「こども支援」のテーマであったが、第2ステージとなる本年度は「外国人支援・多文化共生」をテーマに助成総額も100万円から120万円に増額して実施した。7月から公募開始し、10団体が応募。10月に4団体に120万円の助成を決定した。

中間報告交流会は2020年5月28日(木)のZoomオンラインにて、真如苑のご担当者2名、選考委員3名、助成団体4団体5名、事務局4名の計14名が参加し、新型コロナウイルスの影響など含めて活発な意見交換と交流を実施した。

2020年度は新型コロナウイルスの影響によって困っている人々の支援活動団体を応援する「みんなで支え合い基金」に統合し、外国人支援の枠として公募を開始する予定である。

(担当：永田、実吉)

【募集と選考の流れ】

2019年	7月8日	募集開始
	8月22日	応募締切
	10月4日	選考委員会

【助成期間】

「単年度助成コース」 2019年11月1日～2020年10月31日

「2年継続助成コース」 2019年11月1日～2021年10月31日

「3年継続助成コース」 2019年11月1日～2022年10月31日

【応募状況と採択団体】

応募 10 団体

採択 4 団体（採択総額1,200,000円）

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【選考委員】（敬称略）

委員長 小澤昌甲 （社福）神戸YMCA福祉会 常務理事

委員 石田勝則 （公財）兵庫県国際交流協会 専務理事

委員 石田賀奈子 立命館大学産業社会学部 准教授

委員 武田丈 関西学院大学人間福祉学部 教授

委員 原島照司 真如苑 社会交流部社会交流課 課長代理



（特活）多文化センターまんまるあかし
支援者勉強会

（５）「有園博子基金」事業

本基金は、2017年12月に逝去された故有園博子さん（兵庫教育大学教授＝当時）の遺贈により2018年8月に設立。臨床心理士、精神保健福祉士として、また教育者として、DVや性暴力、犯罪の被害者、虐待された子ども、事故の被害者など、深い傷を負った人たちの支援と支援者育成に長く精力を傾けてこられた故人のご遺志を受け、①DV被害者、②虐待された子ども、③性暴力の被害者、④JR福知山線脱線事故のご遺族の4分野に対する支援もしくは支援のための研究を行う団体・個人を支援している。

2期目となった当年度は、2019年9月～12月に新規団体向け・継続団体向けの各助成公募を開始、2020年2月と3月に選考委員会を開催し助成団体を採択した。新規・継続団体合わせて12団体に計11,025,000円の助成を決定した。

1期から継続して応募する団体へは1件あたり200万円の申請を可能とし、組織基盤強化や人材育成といった側面を重視する申請を促した（新規団体は昨期通り上限50万円）。また、助成団体間で合同企画の声が上がり、4団体の合同企画として申請があった点は大きな進展である。

加えて、助成以外の支援として、希望のあった5団体への伴走支援（アドバイザー派遣）を実施している。

2019年10月には1期助成9団体、委員、マスコミ等、総勢29名で中間報告会を開催し、団体間のネットワークづくりを図った。2020年4月には、全助成団体を対象にキックオフ・ミーティングを開催。コロナ禍で事務局としても初のZoomオンラインイベントとなったが25名の参加となり、特にコロナの影響について活発な情報交換を行うことができた。

また基金の一部を、遺言執行人・企画委員との協議・了解を経て、新設した「ひょうご・みんなで支え合い基金」コロナ対応に使うこととした。これとは別に3期募集に向け8月に企画委員会を開催予定。団体への事前ヒアリングを行い、今どんなニーズがあるのかをリサーチし、助成内容の一層の充実を目指す。
(担当：堀、多田、実吉、永田)

【企画、募集と選考の流れ】

2019年	7月7日	第2期企画委員会開催
	9月10日	第2期（継続）募集開始
	10月3日	第2期（新規）募集開始
	10月27日	第1期中間報告会開催
2020年	2月24日	第2期（継続）選考委員会開催
	3月1日	第2期（新規）選考委員会開催
	4月24日	第2期キックオフMTG開催
	（8月28日	第3期企画委員会開催予定）



「有園博子基金」選考委員会
継続団体のヒアリング

【助成期間】

「単年度助成コース」	2020年4月1日～2021年3月31日	※新規団体は単年度のみ
「2年継続助成コース」	2020年4月1日～2022年3月31日	
「3年継続助成コース」	2020年4月1日～2023年3月31日	

【応募状況と採択団体】

<新規団体>

応募	6 団体
採択	3 団体（採択総額1, 500, 000円）

<継続団体>

応募	9 団体
採択	9 団体（採択総額9, 525, 000円）

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【企画委員】（敬称略）

委員	岩井圭司	兵庫教育大学大学院 教授
委員	柏木登起	(特活)シミズシーズ 代表理事
委員	勝木洋子	神戸親和女子大学 教授（当時）
委員	立木茂雄	同志社大学社会学部 教授
委員	仁科あゆ美	大阪府男女共同参画推進財団 理事・本部長
委員	西部智子	法律事務所ユノ 弁護士
委員	増井香名子	新見公立大学 講師

【選考委員】（* = 企画委員と兼任；敬称略）

委員長	岩井圭司 *
委員	石田賀奈子 立命館大学産業社会学部 准教授

- 委員 執行照子 (特活)日本フェミニストカウンセリング学会 代表理事
委員 仁科あゆ美 *
委員 西部智子 *
委員 三井ハルコ (特活)市民事務局かわにし 理事長

(6) NPO への助成事業

①若手のネットワーク活動への助成 (新規)

若手・中堅の NPO スタッフらによる活動を応援しようと小型の助成プログラムを準備したが、新型コロナウイルスの影響により実施を無期延期とした。

②寄付つき商品による助成 (ASAHI-MITSUHASHI 基金) 等

◆ASAHI-MITSUHASHI 基金

朝日ゴルフ株式会社様の商品を寄付つき商品としていただき、「ASAHI-MITSUHASHI 基金」として医療関連の支援活動を行う団体への助成に活用した。2年間の継続助成であり、初年度助成先の「NPO 起立性調節障害 ピアネット Alice」に継続して助成した。165,600 円 (2018 年度収益分) のご寄付から、その約 85%に当たる 140,000 円を助成した。

2020 年度は新型コロナウイルスの影響によって困っている人々の支援活動団体を応援する「みんなで支え合い基金」に統合し、医療関連支援の枠として公募を開始する予定である。

(担当：永田)

【助成期間】2019 年 10 月 1 日～2020 年 9 月 30 日

③災害関連助成

◆第 15 号・第 19 号台風水害緊急支援

2019 年 9 月に発生した第 15 号・第 19 号台風水害にあたり、大阪府在住の個人 Mさんから 150 万円のご寄付をお預かりした。

広域にわたる水害であり、当財団も多くの関係先がある中、被害の大きさと地域支援の継続的な実施体制という観点から千葉・長野・茨城を支援先に選定し、各 50 万円の助成を実施した。

(担当：実吉)

○公益財団法人 ちばの WA 地域づくり基金 <https://chibanowafund.org/>

・「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」の運営資金として助成。助成額=50 万円。

https://chibanowafund.org/?page_id=2034

○長野県災害時支援ネットワーク <https://nagano-saigaishien.net/aboutus/>

・「長野県災害時支援ネットワーク」の運営資金として助成。助成額=50 万円。

※信州災害支援寄付基金「ONE NAGANO 基金」も運営 <http://urx.space/QXpc>

○認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ <http://www.npocommons.org/>

・同法人による台風 19 号被災地 (主に大子町) での直接支援活動に助成。助成額=50 万円。

<http://www.npocommons.org/topics/taifu19-1107.html>

※台風 19 号の被災地域復興のための「ホープ募金」も運営

<http://www.npocommons.org/topics/hope.html>

(7) 新型コロナウイルス感染拡大に関連する助成事業

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月に「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」を実施し45団体に計261万円の緊急助成を行った。本助成に当たっては、「(4) 真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金」でご支援をいただいている宗教法人真如苑様より100万円のご寄付をいただき、大きな規模で実施することができた。

また、継続的な支援の必要性を認めて5月に「ひょうご・みんなで支え合い基金～コロナから始まる共助社会～」を設立し、新年度7月よりその第1次公募助成を総額500万円で開始することとなった。
(担当：実吉、永田、奥田、堀、多田)

①「子どもの居場所を守る！緊急活動助成」事業

【ご寄付】宗教法人真如苑 100万円

その他、個人からならびに匿名遺贈基金より

【募集と選考の流れ】

2020年 3月11日 第1回応募締切

3月17日 第1回助成決定

3月25日 第2回応募締切

4月1日 第2回助成決定

【助成期間】2020年3月1日～同年の新学期開始までの活動

【応募状況と採択団体】

応募 48団体

採択 45団体（採択総額2,610,000円） ※他に1団体（8万円）辞退あり

※採択団体は末尾の資料編に記載。

【選考委員】（敬称略）

委員 岡村こず恵 甲南大学共通教育センター 特任准教授

委員 小嶋新 (特活)しゃらく インキュベート事業担当執行役員

委員 実吉威 ひょうごコミュニティ財団

【食品のご提供】

下記団体より食品のご寄贈をいただき、子ども支援団体やシングルマザーの支援団体へ配布した。

・MCC食品(株)様（レトルト食品） 12団体へ配布

・真如苑様（お菓子詰め合わせ） 12団体へ配布

②「ひょうご・みんなで支え合い基金」事業

新型コロナウイルスの感染拡大により困難を抱える人が急激に増大しつつあり、またそれを支援するNPOにも大きな悪影響が出つつある状況から、地域の人々からも多くの声を受けて地域のNPO、研究者、市民十数名からなる実行委員会を組織し、支援活動を支援するための「ひ

「**ひょうご・みんなで支え合い基金～コロナから始まる共助社会～**」を設立した。

当年度は資金集めや組織づくりを進め、新年度7月より第1次の助成公募を開始した。

なお、第1次募集については、当財団の4つの既存基金から、その一部または全部を本基金に統合し実施することとなった。(下記、募集総額の「内訳」参照)

【基金設立の経緯】

2020年 5月8日 ひょうご・みんなで支え合い基金設立
5月30日 キックオフイベント（オンライン）開催
(7月23日 第1次助成、公募開始)
(7月25日 チャリティイベント開催)

◆第1次助成

(募集期間) 2020年7月23日～8月17日

(助成期間) 2020年3月1日～2021年3月31日

(募集総額) 500万円

<内訳>

一般募金：対象限定なし	200万円
真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金：外国人支援対象	120万円
ASAHI・MITSUHASHI基金：医療関係の支援対象	30万円
有園博子基金：女性・被害者支援対象	80万円
輝け加古川みらい基金：加古川市内の活動対象	70万円

(対象分野) 限定なし

(8) 他の基金等の事務局受託等

【住友ゴム工業 CSR 基金のサポートおよびボランティア情報提供事業】

(担当：永田、辻)

①「住友ゴム工業 CSR 基金」サポート

本事業は、住友ゴム工業株式会社が従業員から募金を募り、その募金と同額を会社が負担するマッチングギフトにより地球環境問題や社会問題解決に向けた多様な CSR 活動を支援するものである。助成先は、ひょうごコミュニティ財団が推薦した団体を同社内部で選考し決める。

2019 年度は計 7 団体を推薦し、全団体が採択された (計 189 万円)。

※採択団体は末尾の資料編に記載。



2020 年 3 月 3 日 (火) 住友ゴム CSR
基金推薦団体へのヒアリング

②ボランティア情報提供事業

住友ゴム工業株式会社は CSR 活動の一環として、毎月 5 日・6 日 (ゴムの日) に同社社員約 1500 名に対し、県内 NPO 活動への参加を促すようなボランティア活動・イベント情報 (参加無料、低額のもの) を社内イントラネットで提供している。

ひょうごコミュニティ財団はこうした情報を集約し、提供する業務を受託している。情報集約には、複数のメーリングリスト等により行い、毎月 2~3 件ほどを取りまとめて提供した。

2019 年 12 月をもって本プログラムは終了した。

(9) 調査研究事業

①「市民ファンド推進プログラム」助成事業

2019年10月から、前年に続き「『助成する力』を高める」という趣旨の「市民ファンド推進プログラム」（市民社会創造ファンド）助成を受けており、各助成プログラムの改善・強化や手順のマニュアル化を進めた。同助成の中で実施する予定だった輝け加古川みらい基金の事業評価（助成先へのヒアリング等による事業効果の検証）はコロナ禍により延期となった。また、同助成の中で、県内の市民ファンド・コミュニティ財団等の情報交換会を8月に開催した（これはその後も定期的に継続されている）。本プログラムは2020年9月までであり、最後のまとめを急いでいる。

この市民ファンド推進プログラムは、ここ10年ほど全国で広がってきたコミュニティ財団・市民ファンドの健全な発展を促すため、特にその「助成する力」を重点課題と位置づけその強化を図るプログラムであり、当財団の基本的な考え方と大きく重なるものであった。継続して2カ年の助成を受けられたことは当財団のこの2、3年の発展に大きく寄与したと考えられ深く感謝するとともに、このようなプログラムがさらに継続し発展・普及することを願うものである。

(担当：実吉、堀)

②休眠預金等活用制度への政策提言

休眠預金等活用制度は、2019年春から資金分配団体の募集・選考が始まり（第1期）、2020年春は2期目の通常枠に加えコロナ緊急枠が新設され、資金分配団体の募集が行われた。

コロナ禍で多くのNPOも苦境に立たされる中、この制度がその苦境に手をさしのべるような柔軟な運用となるよう、「休眠預金コロナ支援活用検討会」において、議員連盟、内閣府、JANPIA（指定活用団体）等に対して政策提言活動を行った。十分とは言い難いが、「評価の方法」「管理費の比率」「自己資金の比率」「都道府県単位の申請」等において、コロナ緊急枠が縛りの少ないものになったことに多少は貢献できたと考えている。

(担当：実吉)

「休眠預金コロナ支援活用検討会」の活動とコロナ緊急枠の募集

https://peraichi.com/landing_pages/view/collaboj2020

【経緯】

- 4月28日 発足、要望書を作成し賛同者集め開始
- 5月10日 要望賛同者締切（計885個人・団体）
- 5月11日～ 休眠預金議員連盟、NPO議員連盟、内閣府、JANPIAに要望書提出
プレスリリース
- 5月20日 休眠預金審議会開催、コロナ緊急枠と基本計画変更について検討
- 5月25日 JANPIA、資金分配団体（コロナ緊急枠）公募要領を公開
この間、賛同者へのオンライン説明会を数回開催（5/10、5/17、5/24、6/28）
- 6月12日 JANPIA、資金分配団体（コロナ緊急枠）の応募締切
- (7月12日 JANPIA、資金分配団体（コロナ緊急枠）の採択団体公表

【発起人】

小池達也 よだかの学校運営委員会 代表理事
坂本憲治 NPO法人市民社会創造ファンド 事務局次長
実吉 威 公益財団法人ひょうごコミュニティ財団 代表理事
永田賢介 認定NPO法人アカツキ 代表理事 ※団体としての参画
早瀬 昇 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長
松原 明 休眠預金コロナ支援活用検討会 代表 ※本活動の責任者
森山誉恵 認定NPO法人3keys 代表理事

(10) 市民活動団体への非資金的支援事業

特定非営利活動法人市民活動センター神戸（KEC）から事業を承継し、2020年4月以降、非資金的支援事業を当財団として実施することとなった。伴走支援などはすでに助成基金の中で実施していたものだが、独立して「非資金的支援事業」とした。

団体の運営や経営力強化（キャパシティ・ビルディング）支援を進めるための個別相談、伴走支援（アドバイザー派遣）、研修、情報提供、資金以外の資源提供等であり、メイン事業である資金助成事業と相まってNPO支援の効果を高めていく。（担当：実吉、永田、奥田、堀、多田）

①相談事業

助成先に限らず、NPO等からの個別の相談に応じている。内容としては、資金調達（当財団の助成以外）、およびそこから派生する組織づくりが多いが、法人化や事業推進、ネットワークづくりなど、多様なものが含まれている。

②伴走支援（アドバイザー派遣）の実施とその研究会開催

2018年秋募集の輝け加古川みらい基金（第4期；事業実施は2019年4月～）から、資金助成に加えて「伴走支援」を実施した。2019年秋から有園博子基金においても実施、支援先を拡大しつつある。3月からコロナ禍の影響を受けているが、オンラインなどを活用し推進している。

また、下記のアドバイザー陣と事務局により伴走支援の研究会を開催し、そのあり方について事例をもとに検証し手法の深化を図っている。

なお、(社福)神戸市灘区社会福祉協議から区内のNPO・ボランティア団体向けのアドバイザー派遣を2020年度に受託する予定（2020年3月までは市民活動センター神戸が受託）。

【支援先団体と支援内容】

<輝け加古川みらい基金>

- ・(特活)One Heart（加古川市）[組織ビジョン、人材育成]

<有園博子基金>

- ・(特活)フェミニストカウンセリング神戸（神戸市）[事務の効率化、人材育成]
- ・(特活)性暴力被害者支援センター・ひょうご（尼崎市）[会計の改善]
- ・(特活)面会交流支援センター・ピロティ（神戸市）[組織運営全般]
- ・(認定特活)女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ（神戸市）[組織ビジョン、人材育成]
- ・(社福)神戸いのちの電話（神戸市）[会計の改善]

【アドバイザー】（敬称略）

荻野俊子 NPO会計支援センター 代表
柏木輝恵 (特活)シミズシーズ 事務局長
河合将生 office musubime代表
小嶋新 (特活)しゃらく インキュベート事業担当執行役員
東末真紀 神戸大学学生ボランティア支援室

【伴走支援研究会の開催】

- 第1回 2019年8月28日 参加者 アドバイザー3名、事務局4名、オブザーバー1名
(内容)「伴走支援」全般について、「アドバイザー派遣」制度について、事例検討
- 第2回 2019年12月6日 参加者 アドバイザー3名、事務局3名、オブザーバー2名
(内容) 新規派遣の検討、事例検討
- (第3回 2020年7月3日) 参加者 アドバイザー3名、事務局4名
(内容) アドバイザー派遣のスキームについて(確認)、事例検討

③「認定 NPO 法人相談窓口事業」(神戸市委託)の受託・実施

2020年3月まで市民活動センター神戸が神戸市より受託していた「認定 NPO 法人相談窓口事業」を、2020年4月より当財団が受託することとなった。窓口開設及び出張相談では、認定 NPO 法人制度の基礎知識や具体的な申請手順、認定取得後の義務、所轄庁の監督について説明し、団体の状況に応じたアドバイスを行った。また8月から開催する全9回の説明会の企画準備を行った。

- 1) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営(会計含む)に関する相談窓口 5 団体計 9 回
- 2) 認定取得・更新のための組織運営(会計含む)に関する出張相談
新型コロナウイルスの影響で開催無し
- 3) 認定 NPO 法人制度及び認定取得・更新のための組織運営(会計含む)に関する説明会の企画・開催

8月より開催する説明会を下記のように計画した。

【1】新型コロナウイルス状況下で、認定NPOを有効活用するための知識と技術

- ・ポストコロナ時代の、Zoom等のITを活用したコミュニケーション
- ・ポストコロナ時代の、ITを活用した組織運営と外部との関係性づくり

【2】認定NPO法人制度入門講座

- ・制度の概要や基礎を知り、今年度の事業計画における寄付募集計画を検討しながら学ぶ
- ・次年度向け：制度の概要や基礎を知り、次年度の寄付募集計画を検討しながら学ぶ

【3】認定NPO法人を目指す団体向けの「会計」スキルアップ講座

- ・正しい会計と仕訳の基礎
- ・現金出納帳から月次の決算
- ・決算書の作り方

【4】認定NPO法人を目指す団体向けの「監事」スキルアップ講座

- ・総会終了後、監事を担うことが多い税理士等の繁忙期を避けて実施

【5】認定NPO法人申請のための、「NPO法人の運営基礎」確認講座

- ・NPO法人の定款とは、所轄庁、法務局、労務、税務手続きなど、日常的な法人事務等

④パナソニック「NPO/NGOの組織基盤強化のためのワークショップ」

当初は(認定特活)日本 NPO センターと共催で全国 5 カ所、集合型ワークショップを開催予定だったが、コロナの影響でオンラインセミナー開催となった。内容は NPO/NGO のリーダーやスタッフ、理事などの関係者が自団体を見直すために役立つ【組織基盤強化の考え方】【実践者による

事例紹介・トークセッション】。当財団は第2回目を担当した。

【オンラインセミナー】

第1回 5月27日

事例紹介ゲスト：(認定特活)ソルト・パヤタス 事務局長 井上 広之さん

進行：(認定特活)日本 NPO センター

第2回 6月10日

事例紹介ゲスト：(特活)ふぉーらいふ 副理事長 矢野 良晃さん

進行：(公財)ひょうごコミュニティ財団

第3回 6月25日

事例紹介ゲスト：(特活)ホールアース研究所 代表理事 山崎 宏さん

進行：(認定特活)ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

⑤明治ホールディングス(株)ご提供のお菓子の配布

明治ホールディングス(株)及び同社株主より、(認定特活)日本 NPO センターを通じて明治グループのお菓子の寄贈申出を受けた。当財団で次の5団体を推薦し、配布した。

じょいふる会、(特活)はなのいえ、(特活)ふぉーらいふ、(社福)神戸 YMCA 福祉会、
べこっこ MaMa

4. 組織

(1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況

【評議員】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2016年9月23日～2020年度評議員会終了時)

評議員 加藤恵正	評議員 木田薫	評議員 高士薫
評議員 竹中ナミ	評議員 中田豊一	評議員 早瀬昇
評議員 三野哲治	評議員 三井ハルコ	評議員 井上真二
評議員 中山光子	評議員 室崎益輝	

【理事】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

理事 小森星児 (代表理事)	理事 実吉威 (代表理事)	
理事 島田雄三 (副代表理事)		
理事 永田譲蔵 (業務執行理事)	理事 藤田精二 (業務執行理事)	
☆理事 岡村こず恵	理事 河合将生	理事 武田良彦
理事 田中茂	☆理事 田中裕子	理事 津久井進
理事 西河紀男		

(任期：☆の2名は2019年5月9日～2020年度評議員会終了時)

他の理事は2018年9月27日～2020年度評議員会終了時)

【監事】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

監事 金志煥	監事 柴田眞里
--------	---------

(任期：2016年9月23日～2020年度評議員会終了時)

【専門アドバイザー】

阿部陽一郎	石田祐	荻野俊子	川中大輔
行司高博	久戸瀬昭彦	久保幸一	佐藤等史
茶野順子	長沢恵美子	畑本康介	馬場英朗
細谷崇	松井薫	宮崎洋彰	渡辺元

(敬称略)

(2) 会議

【評議員会】

- 2019年9月12日 定時評議員会（秋毎ビル2階会議室にて）
出席評議員 11名中8名
審議事項 1. 2019年度決算案承認の件

【理事会】

- 2019年8月22日 第31回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）
出席理事 12名中12名（監事2名出席）
審議事項 1. 2018年度事業報告案承認の件
2. 2018年度決算報告案承認の件
3. 2019年度定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の決定の件
4. 「若手のネットワーク活動への助成」計画案承認の件
5. 2019年度修正予算案承認の件
- 2019年11月7日 第32回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）
出席理事 12名中10名（監事2名出席）
審議事項 1. KECからの事業譲渡案承認の件
2. 2019年度事業計画・予算の変更案承認の件
3. 「公益目的事業の区分」の変更申請案承認の件
4. 故A氏の遺贈受け入れ（受遺）案承認の件
- 2020年3月9日 第33回理事会（みなし決議の方法により開催）
審議事項 1. 新型コロナウイルス対策にかかる「緊急活動助成」事業案承認の件
- 2020年4月14日 第34回理事会（WEB会議および財団事務所での実参加）
出席理事 12名中9名（監事2名出席）
審議事項 1. 市民活動支援助成（コロナ対応）実施案承認の件
2. 災害等の緊急時の助成活動に関する代表理事への権限委譲案承認の件
3. Mさんからの台風水害寄附に関する助成案承認の件
4. KECとの新契約案承認の件
5. 役員報酬改訂案承認の件
- 2020年4月22日 第35回理事会（みなし決議の方法により開催）
審議事項 1. 新型コロナウイルス対策および「ポストコロナ」を視野に入れた「基金」事業案承認の件
- 2020年6月17日 第36回理事会（財団事務所での実参加およびWEB参加）
出席理事 12名中10名（監事2名出席）

- 審議事項 1. 2020 年度事業計画案承認の件
2. 2020 年度予算案承認の件
3. 「ひょうご・みんなで支え合い基金」計画案承認の件

【常務会】

- 2019 年 8 月 2 日 第 36 回常務会（秋毎ビル 3 階当財団事務所にて）
2019 年 10 月 11 日 第 37 回常務会（秋毎ビル 3 階当財団事務所にて）
2020 年 4 月 8 日 第 38 回常務会（秋毎ビル 3 階当財団事務所にて）
2020 年 6 月 12 日 第 39 回常務会（秋毎ビル 3 階当財団事務所にて）

（3）組織の基盤整備

7月に常勤職員（主に助成事業担当者）を1名、1月に非常勤職員を2名（事業担当・管理担当各1名）、それぞれ採用した。また、将来の事務局責任者となり得る人材を中長期的に探している（2020年7月から事務局長（次長）候補者を募集している）。

（4）公益目的事業の区分の追加検討

当財団の公益目的事業は「市民活動助成・支援事業」1種類であり（公1）、その下に、「ア、説明会・講習会の開催」「イ、寄付啓発事業」「ウ、市民活動団体への助成事業」「エ、市民活動活性化につながる基金・財団等への支援」「オ、調査研究事業」の5種類の区分がある。この区分が非資金的支援を中心とする事業の成長・拡大に伴い古くなってきたため、「ア」を削除し、新規に「非資金的支援」を追加した。

なお、公益認定の「チェックポイント」上の種類については変更はない（(3) 講座、セミナー、育成、(8) キャンペーン、〇〇月間、(13) 助成（応募型）、(5) 相談、助言、(6) 調査、資料収集）。

（5）市民参加の推進（インターン、ボランティアなど）

助成プログラム、ファンドレイズの両面で、インターンやボランティアなどの参加を得て活動を推進している。

（担当：実吉、藤田、永田、辻）

<資料編>

(1) ファンドレイジング事業

遺贈寄付に関するデータ

1) ご相談のルート

	全 36 件中	遺言書作成 9 件中
ご本人	15 件 (41.7%)	0 件 (0.0%)
専門家・金融機関	12 件 (33.3%)	7 件 (77.8%)
NPO	6 件 (16.7%)	0 件 (0.0%)
その他	3 件 (8.3%)	2 件 (22.2%)

2) 法定相続人の有無 ※「不明」を除いた集計

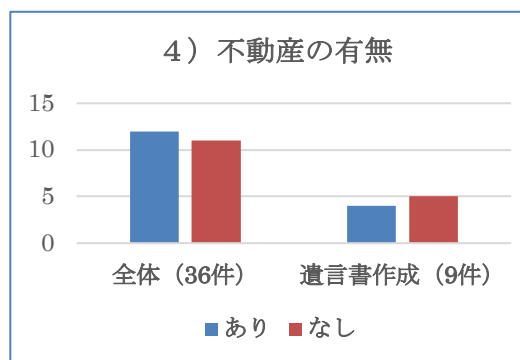
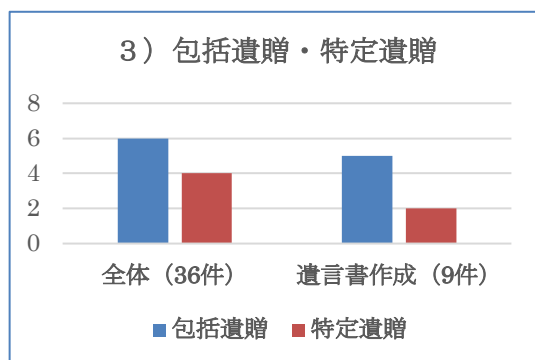
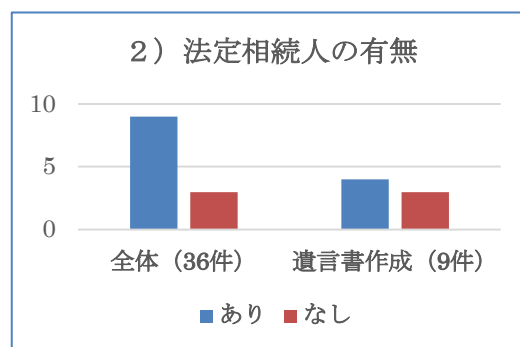
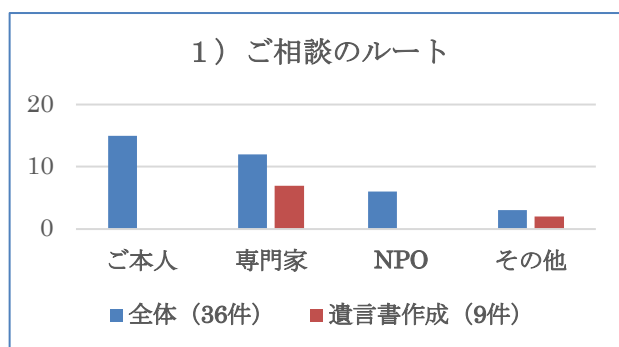
	全 36 件中	遺言書作成 9 件中
あり	9 件 (25.0%)	4 件 (44.4%)
なし	27 件 (75.0%)	5 件 (55.6%)

2) 包括遺贈・特定遺贈 ※同上

	全 36 件中	遺言書作成 9 件中
包括遺贈	6 件 (16.7%)	5 件 (55.6%)
特定遺贈	4 件 (11.1%)	2 件 (22.2%)

4) 不動産の有無 ※同上

	全 36 件中	遺言書作成 9 件中
あり	12 件 (33.3%)	4 件 (44.4%)
なし	24 件 (66.7%)	5 件 (55.6%)



(3) 輝け加古川みらい基金 採択団体一覧

<基本コース>

(単位:円)

	団体名	事業名	採択金額
1	東はりま囲碁クラブ	かこむ囲碁教室	100,000
2	みんなのお茶の間 ゆるり家	「さんすう」って面白い! ~遊んで学ぶ算数ワークショップ~	100,000
3	(特活)知的障がいを持つ人の余暇活動をサポートする会	障害を持つ人たちのための演劇活動	100,000
4	コミュニティ食堂 よついで~	コミュニティ食堂 よついで~	30,000
5	親子サークル UME	子育て応援・地域活性化	100,000
6	音の宝石箱	参加型音楽療法コンサート	100,000
7	じょいふる会	DCD 支援くらぶ「コーディネート」	82,000
8	なかよし『加古川マダン』開催実行委員会	第 18 回なかよし『加古川マダン』	100,000
9	ぱたぱた Flap	子ども×親×若者=みんなに優しい子育てのカタチ	70,000
10	東播磨ネイチャークラブ	こころ豊かな子供の育成	53,000
11	はりま CAP リバ	自分を好きになる子育て講座 I・II	90,000
12	二樹会	二樹会パワーアップ作戦	15,000
13	加古川西マジッククラブ	加古川西マジッククラブ	50,000
14	加古川マジックアカデミー	子どもの創造性育成事業	70,000
15	印象工作室	輝け自分&輝け加古川!	78,000
16	ひょうご ヨーヨーOtedama の会	ヨーヨーお手玉を、けん玉に比肩する古くて新しい競技スポーツとして普及拡大を図る	100,000
17	加古川野口マジッククラブ	マジック(手品、奇術)	100,000
		(計)	1,338,000

<発展コース>

	団体名	事業名	採択金額
1	(特活)ささゆり会	重度障害児者の社会参加支援事業・重度障害児者についての研修事業、重度障害者の啓発事業・ピアサポート事業	456,000
2	ボーイスカウト加古川第 5 団 ※複数年度(2年採択)	『集まれ! 未来の若者たち。』	210,000
3	「寿願寺・寺子屋」事業協力会	地域に生きる「寿願寺・寺子屋」~心豊かな子どもの育成~事業	435,000
4	(一社)こどものための音楽塾	こどものための音楽塾	488,000
5	(特活)兵庫県バスケットボール・コーチ会	2020 加古川バスケットボールお手軽練習会	73,000
		(計)	1,662,000

(4) 真如苑・ひょうご多文化共生・外国人支援基金 採択団体一覧

(単位:円)

	団体名	事業名	採択金額
1	NGO 神戸外国人救援ネット	外国人の人権と生活を守るための相談・支援活動と活動基盤確立のための事業	350,000
2	(特活)アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性に向けた相談活動・情報発信とその促進事業	300,000
3	こくさいひろば芦屋	外国人が地域社会に貢献し外国人が孤立しない地域づくり	300,000
4	(特活)多文化センターまんまるあかし	みらいのきょうしつ	250,000
		(計)	1,200,000

(5) 有園博子基金 採択団体一覧

<新規団体>

(単位:円)

	団体名	事業名	採択金額
1	(公社)ひょうご被害者支援センター	性暴力被害者からの電話相談スーパーバイザー育成事業	500,000
2	(特活)ぴっぴ	育てにくさをもっている子どもと保護者を支援することで虐待の発生予防を行う為の人材育成・組織強化	500,000
3	(特活)いちごの会	DV 被害、虐待被害、性暴力被害経験のある依存症者の回復支援に関する研究事業	500,000
		(計)	1,500,000

<継続団体>

	団体名	事業名	継続採択	採択金額
1	(一社)神戸ダルクヴィレッジ	子ども時代に虐待を受けた薬物依存症者の回復支援活動の基盤づくり事業		1,125,000
2	(特活)Giving Tree	フォスターペアレント プログラム		785,000
3	面会交流支援センターピロティ	子どもの利益となる面会交流等の支援事業		825,000
4	(認定特活)女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ	DV 被害を受けた女性と子どもの切れ目のない中長期支援体制の構築	3年継続	1,790,000
5	(社福)神戸いのちの電話	「神戸いのちの電話」のボランティア電話相談員の拡大をはかるための広報、養成	3年継続	835,000
6	(特活)性暴力被害者支援センター・ひょうご	性暴力被害相談のアクセス改善	3年継続	1,895,000
7	NGO 神戸外国人救援ネット	外国人 DV 被害者女性のための相談活動、及び相談体制強化と人材育成		1,000,000
8	(特活)フェミニストカウンセリング神戸	法人の世代交代における組織と事業の見直しによる基盤強化、事務業務の引継ぎ、および新規スタッフの獲得と既存スタッフの定着に向けた取組み		1,000,000
9	【4 団体合同企画】 代表団体:(特活)性暴力被害者支援センター・ひょうご	トラウマ×コミュニティ～有園基金でつながる・ひろがる・深まる～		270,000
		(計)		9,525,000

(7) 新型コロナウイルス感染拡大に関連する助成事業

①子どもの居場所を守る！緊急活動助成 採択団体一覧

(単位:円)

	団体名	地域	採択金額
1	World Caravan PRAY4	明石市	60,000
2	みんなのごはん	神戸市	60,000
3	(特活)兵庫子ども支援団体	明石市	50,000
4	(特活)人と地域の活動応援団ぽっかぽか	西宮市	80,000
5	(一社)就労継続支援B型事業所 IT ワークス姫路	姫路市	40,000
6	(特活)S-pace(摩耶学童保育所)	神戸市	60,000
7	(一財)日本伝統芸術文化財団 西宮能楽堂	西宮市	50,000
8	加古川1日青空教室	神戸市	40,000
9	みんなの家ひなたぼっこ	加古川市	60,000
10	ブラジル音楽マトリックス	太子町	60,000
11	(特活)はなのいえ	姫路市	20,000
12	(一社)エースあそびの学校	神戸市	80,000
13	塩屋ハウス	神戸市	50,000
14	(特活)おーえんくらぶ	明石市	50,000
15	(認定特活)女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ	神戸市	80,000
16	ももかふえ	尼崎市	60,000
17	(特活)こども育ちわたし育ち Madrina	神戸市	10,000
18	(特活)シンフォニー(アルキメデス)	尼崎市	60,000
19	(特活)ころあい自然楽校	稲美町	80,000
20	(特活)生涯学習サポート兵庫	姫路市	80,000
21	自然と文化の森協会	尼崎市	40,000
22	(特活)ハチ高原氷ノ山自然体験村	養父市	80,000
23	神戸ユースプラザ菊水	神戸市	70,000
24	六甲学童保育所どんぐりクラブ	神戸市	80,000
25	みんなで減災し隊!	丹波篠山市	60,000
26	エモちゃん絵本プロジェクト	姫路市	80,000
27	(特活)S-pace(たつのこ学童保育所)	神戸市	60,000
28	宝塚すくすくアカデミー	宝塚市	80,000
29	しんぐるまざあず・ふぉーらむ・尼崎	尼崎市	50,000
30	まんまプロジェクト	尼崎市	50,000
31	東播磨教職員サークル hibick	明石市	70,000
32	(一社)日本リズムダンス・スポーツ協会	伊丹市	80,000
33	さとのわ	神戸市	60,000
34	(特活)福祉ネット星が丘	神戸市	20,000
35	(一財)野外活動協会(OAA)	加古川市	60,000
36	(特活)クラブアクティビティサポート	揖保郡太子町	30,000
37	(特活)学童保育むぎっ子	神戸市	70,000
38	(特活)須磨ユニバーサルビーチプロジェクト	神戸市	60,000
39	(特活)ほっぺ	三木市	80,000
40	学童保育所住吉ピノキオクラブ	神戸市	60,000
41	(特活)里地里山問題研究所	丹波篠山市	50,000
42	(特活)バンディオンセ・エスクウェーラ	神戸市	40,000
43	揖西北まちづくり協議会	たつの市	70,000
44	高羽風の子学童保育所	神戸市	70,000
45	宝塚ふぁみりい劇場	宝塚市	10,000
		(計)	2,610,000

(8) 他の基金等の事務局受託等

①住友ゴム工業 CSR 基金 採択団体一覧

(単位:円)

	団体名	地域	助成金額	備考
1	(特活)つみっ庫くらぶ	小野市	270,000	継続
2	(特活)日本ハンザキ研究所	朝来市	270,000	継続
3	WARKMATE(ワークメイト)	神戸市	270,000	継続
4	アイの会	加古川市	270,000	継続
5	(特活)ひょうご森の倶楽部	神戸市	270,000	
6	(特活)神戸海さくら	神戸市	270,000	
7	NPO 法人ころあい自然楽校	稲美町	270,000	
		(計)	1,890,000	